

福祉文化通信

～ Well-being への道～

2022.5.15
Vol. 93

- 発行所／広報委員会 稲田泰紀・福山正和
- 作成／長瀬さやか

日本福祉文化学会事務局 〒651-2180 兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬 518 神戸学院大学 15 号館 7 階 佐野研究室内
 電話番号：078-974-1868 E-mail：jfkushibunka@gmail.com ホームページ：http://fukushibunka.hippy.jp/



2021年10月30日(土)～2021年10月31日(日)の日程で、第32回日本福祉文化学会全国大会が、神戸学院大学総合リハビリテーション学部佐野光彦研究室をサテライトスタジオにして、オンライン

ONLINE オンライン

日本福祉文化学会 第32回全国大会 —— 佐野光彦 コロナ禍と福祉文化——次への課題と挑戦

ン形式で開催されました。現地では9名と、オンライン参加とで、べ92名の参加を頂いた。大会1日目は石田会長あいさつから始まり、関西ブロックによる自主シンポジウム「障がい者の舞台芸術について

の国際比較研究報告」では、活発な議論が展開された。阿久根賢一氏(社会福祉法人福祉福祉会理事長)による特別講演「認知症ケアのあり方について」では、分かりやすい言葉で福祉福祉の歴史、コロナ禍での取り組みについて説明があった。その後、認知症の利用者への働きかけなどの実践を学ばせて頂いた。その後の研究発表では5本の報告があり、有意

義な質疑応答がなされた。(タイトル「福祉文化現場セミナー」の創造、コロナ禍におけるイスラームの福祉と教育、ジオパークにおけるユニバーサルデザイン化の諸課題と戦略的ソーシング、最期の希望を叶え、自宅で平穏死できたM氏に関する考察、留学生の学業と高齢者施設での仕事を両立させる要因、京都西山短期大学の留学生の意見から)

大会プログラム	
第1日目：10月30日(土)	
12:00	開会式
12:10	自主シンポジウム①「障がい者の舞台芸術についての国際比較研究報告」
14:00	特別講演「認知症ケアのあり方について」阿久根賢一
15:10	研究発表
第2日目：10月31日(日)	
10:00	研究発表
12:30	基調講演「リアフリー観光からはじまるまちづくり、人づくり」野口あゆみ
14:00	自主シンポジウム②「死者とのダイアローグ—対話する生者として生きる—」
16:00	総会～福祉文化実践学会賞授賞式～閉会式

2日目の午前中は、5本の研究発表が行われた。(タイトル「岡山県介護ロボットのニーズ・シーズ連携協議会で議論された福祉用具選定補助システム、コロナ禍での大学と地域が連携した実践教育の実践報告」担当教員と事務担当者それぞれから見た緊急事態下での実践教育、ロカール団体が行なう幼児への情操教育活動一子ども達が本物の音色に触れる活動、コロナ禍におけるアジアの教育環境の変化、Present Situation and Impact of COVID-19 on the Education System in Bangladesh) 今回は、パングラデシュ人の会員の

総務委員会 担当理事 渡邊豊

「新しい」福祉文化現場セミナー

日本福祉文化学会にとって、福祉現場セミナーの実施は大きな特色となっています。感染禍ではありますが、「新しい」福祉文化現場セミナーを、北陸ブロック(新潟福祉文化を考える会)とともに企画して、新潟県内各地で多様なセミナーを実施し、その都度学会ホームページに事前告知・事後報告をしてきました。本年度は、4月から毎月第1日曜日に新潟市「沼垂テラス商店街」を会場に開催します。「災害」と福祉文化をテーマにして、4月と秋季に中越地震被災地の長岡市を会場に開催します。そして「集落」等と福祉文化をテーマにして、5月に佐渡市、6月に上越市を会場に開催します。7月以降の開催については企画中であり、取り組みやすいコンパクトなセミナーを多数開催することを目指しています。本年度も学会ホームページに告知・報告をしますので、楽しみにしてください。そして、新潟での取り組みを参考に、全国各地でセミナーが開催されることを願っています。

広報委員会 担当理事 稲田泰紀

～広報委員会の2022取り組み方針～

広報委員会の活動は、福祉文化通信の発行、ホームページの更新および運営、福祉文化学会メールマガジンの発行を主とした活動を行っています。魅力ある学会づくりの一つに学会のコトを知ってもらい、興味をもってもらう、参加してもらう視点もあって考えています。ぜひ、この素晴らしい学会活動に興味を持ってもらい、「日本福祉文化学会はこんなことしているよ」と皆さん自身が広報発信のアンテナ役を担って“つながり”を持って頂ければ幸いです。

- 学会ホームページ <http://fukushibunka.hippy.jp/>
- 学会メルマガ登録希望の方は jfkushibunka@gmail.com (事務局) まで連絡をお願いします。

福祉文化実践学会賞

福祉文化実践学会賞 選考委員会

通所リハビリテーション施設「檜の森」での川瀬弓子氏の取り組みが受賞

新潟県三条市にある川瀬神経内科クリニックでは、日々の診療で認知症のお年寄りに関わるうちに医療だけの限界を感じ、脳、特に右脳に刺激を与えるような生活リハビリによって認知症の進行予防をしようとした。そして1996年に開設したのが、通所リハビリテーション施設「檜の森」である。



通所リハビリテーション施設「檜の森」

このような取組は、当学会が目指す「福祉の改善・改革を『文化』の視点から検討する」という視点と合致している。こうした理由から2021年度の福祉文化実践学会賞には、標記「通所リハビリテーション施設「檜の森」での川瀬弓子氏の取り組みを選考委員会の総意として推薦し、理事会の議決を経て受賞が決定しました。

学会会員動向 (2022年4月20日現在)

個人会員	207名
学生会員	11名
団体会員	4団体

*2022年10,11月頃に、第33回全国大会《京都》は大谷大学で開催予定です。

川北典子大会実行委員長を中心に着々と準備が進んでいます。内容等については決まり次第、順次、ホームページ等でお知らせいたします。

※尚、新型コロナウイルス感染症やその他社会情勢により延期や開催内容変更等が行なわれる可能性がありますことご了承下さるようお願いいたします。



中国四国ブロック
担当理事 杉山博昭

中国四国ブロック 教育支援文化活動

岡山市立平津小学校・令和3年度卒業生39名に対し、3年前の2019年3月22日の歌声をCDにして卒業記念品としてプレゼントしました。曲はわが岡山が誇る童謡作家坪田譲二氏に捧げる「ふるさと讃歌 作詞/玉光源爾 作曲/松原徹」。レコーディングは大河原秀雄（日本福祉文化学会会員）、機材は舟尾和晃（NPO法人音楽の管理事）が経営する楽器店様に提供していただき、当時の担任三宅先生、名畑事務局長による歌唱指導のもと、玉光源爾岡山市教育長作詞による「ふるさと参加（讃歌）」に子どもたちの声で魂が込められました。

小学3年は、幼児から児童に変わる重要な時期と考えます。高学年になると「歌を歌いましょう」と投げかけても「えー！」となるのが普通。だからこそ考え方、声、身体の大きさに変化があっても、あの時の情熱、ピュアな心をCDに焼き付け、これからの旅立ちのはなむけにと学校に提案して実現に至りました。



編集委員会
担当理事 塩田公子

編集委員会

『福祉文化研究』31号では、会員の方々の投稿、査読の皆さん方のご協力ありがとうございました。次号『福祉文化研究』32号では、会員の方々の活動や実績についても掲載する予定です。

『福祉文化研究』32号の原稿を募集します。内容は、「ブロック活動だより」と「本の紹介」です。「ブロックだより」は、ブロック活動で行われたセミナーやブロックに所属する会員の活動報告などA4 2～3頁。「本の紹介」は、会員の著書や会員が推薦する本の内容をA4 1枚にまとめて下さい。

提出先は論文投稿先（編集委員会 塩田宛）、締切は9月未まで。

『福祉文化研究』32号の会員の方々からの多くの論文、原稿の投稿をお待ちしています。投稿論文の募集については、同封の募集用紙をご覧ください。

関東ブロックの 活動のご報告（2021年度）

関東ブロックは、「福祉文化のひろば」としての輪読会を、5回実施いたしました。

輪読会は、日本福祉文化学会ブックレット『私たちのメモト・モリ＝死を想う経験＝』（「わたしの最期」）を使って、第1回は2021年1月24日に「僕にとってのメモト・モリ～死を想うこと～（執筆者：結城俊哉）」を、第2回は3月28日に「人が生きることの無条件の肯定～近代的な能力主義を乗り越える～（執筆者：阿比留久美）」を、第3回5月30日に「死にゆくおひとり様の寂しさを考える～阿闍世話と母娘～（執筆者：真柄希里穂）」を、第4回は8月22日に「自ら命を絶つということ～私の死は誰のもの～（執筆者：久保美紀）」を、第5回は12月5日（日）に「身近な死から考えたこと～死者の記憶を血肉とする～（執筆者：小山伸子）」を、毎回執筆者が参加、また毎回執筆者とは異なるコメントーターにコメントをお願いして、オンライン（Zoom）により実施、完結いたしました。

関東ブロックは 2つのゼミがスタート（2022年度）

関東ブロックでは、2022年度から「居場所を考える福祉文化ゼミ」と「子どもや保育を考える福祉文化ゼミ」の2つのゼミがスタート、それぞれのゼミが月に1回あるいは2か月に1回、ゼミを開くことになりました。

関東ブロック以外の方でも、興味のある方はご参加ください。

問い合わせや申し込みは、
関東ブロック事務局 h.konuma@jcom.zaq.ne.jp まで

九州ブロック報告

昨年度の九州ブロックは、コロナ禍の影響から対面での研究会や交流の機会が難しい現状でした。そのため、当ブロック内に所属する会員に対して、九州各地に点在する福祉文化に関する情報収集をメールでお願いしました。また、本連絡に合わせ、令和3年度第1回大分認知症ケア事例研究会を両宮洋子監事(同研究会代表)のご協力を得て12月9日に開催しました。

テーマは①「転倒・転落防止に離床センサーを使用した事例」、②「転倒・転落を防ぐためにできること」の2テーマであり、本研修は、認知症ケア専門士単位研修に位置付けられました。

九州は東西南北に広く、7県が位置します。今年度もコロナ禍によって対面研修が難しい現状が続くと思われま。ブロック内各県の福祉文化情報を次の連絡先までお寄せ頂き、会員相互の研鑽と交流の機会となれば幸いです。奮って情報をお待ちしています。

【連絡先】 makoto-takiguchi@oita-u.ac.jp
大分大学 滝口 真 宛

九州ブロック
担当理事 滝口 真

関西ブロック報告

関西ブロックでは、学会員を増やすことや会員の学習・報告の機会を増やすことを目標に掲げていましたが、コロナ禍のため予定通りにはなりません。

今年度は主としてオンライン研究会を開催し『障がい者の舞台芸術についての国際比較研究』に取り組みました。実践者の方々（3名）に取り組み内容をご報告いただき、情報共有をするとともに課題の理解に努めました。次年度は公演の鑑賞や事業所等への訪問・調査を計画しています。さらに、夢は大きく海外の障がい者の舞台芸術の訪問・調査も予定しており、インプロビゼーション（即興）的な取り組みとインタラクティブな（相互に作用する）関わり合いについて、研究を深めていきたいと考えています。

今後の研究会は、オンラインと対面の併用で開催していきたいと考えていますので、全国の学会員へ周知し、参加を募りたいと考えています。

障がい者の舞台芸術についての国際比較研究

障がい者の芸術活動に注目が集まりつつあります。何よりも、障がい者が芸術を通じて自己表現し、それによって自己肯定感を養うこと、さらにそれが社会によって承認されることでさらに自己肯定感が高まります。障がい者の自己表現と社会との関わりが一つのテーマになります。

障がい者の舞台芸術についてはまだ紹介が少ないですが、海外ではイタリア、イギリス、そしてスウェーデンではすでに実績があります。日本でも大阪の“ビッグアイ”、名古屋の“ポパイ”、仙台の“すんぷちよ”、広島市の“ひゅーるぼん”など多数の団体が実践をしています。これらと比較することによって、何か新しい知見が生まれられないだろうか、というのが研究会の出発点になっています。

2021年度はコロナ禍でもありオンラインで研究会を行いました。最初は、川井田祥子著『障害者と芸術表現：自己肯定感と承認の場をはぐくむ』（水曜社、2020）を読みました。次に、実践例の報告として、福祉エンターテイナーの新井純さん、NPO法人“ポパイ”のパフォーマンスアート担当山口光さん、NPO法人“すんぷちよ”代表の及川多香子さんの講演をいただきました。

講演は大きく分けて2つのタイプがありました。一つは、障がい者が健常者と一緒に演劇などを行い、共に成長していくタイプ、そしてもう一つは、演じる人と観る人は異なっているが、相互に影響しあいながら創り上げていくタイプです。どちらのタイプでも共通することは、既存の台本通りに進めていくのではなく、インプロビゼーション（improvisation）（即興）的な対応を伴っていることです。もう一つは障がい者とのインタラクティブな（相互に作用する）関わり合いがあるということです。相互的な関わり合いによって内容を新たに創り上げていく（即興も含まれる）ことが肝要で、この2つがキーワードになります。

2021年度全国大会で自主シンポを開催しました。その時の報告は、①研究会発足の趣旨（報告者：藤岡純一）、②ビッグアイ（石田易司）、③認定NPO法人ポパイ（田島栄文）、



Mosaikteatern（スウェーデン）の舞台公演

④新井純先生の講演（片山千佳）でした。これらの報告にNPO法人アートワークショップ“すんぷちよ”のお話の要約を付け加えてまとめた報告集を作成しました。

2022年度も研究会は続きます。今年度は訪問と聞き取りが中心になると思います。参加希望の方はご連絡ください。

2021年度関西ブロック研究会
藤岡純一 / 片山千佳

日本福祉文化学会の 2021年度報告および 2022年度事業計画を紹介します

